

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101861		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	今泉ケアセンターそよ風		
所在地	栃木県宇都宮市中今泉四丁目22番1号		
自己評価作成日	平成30年3月19日	評価結果市町村受理日	平成30年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成30年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居中のお客様1人1人に『毎日取り組む個人目標』を作り、毎日継続して取り組むことで達成感を味わっていただける支援を行っています。また、季節を感じる行事計画や月に1回以上・週に1回以上のイベントを企画し、充実した『その人らしい』生活が送れるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

従来からの会社の理念に加え、昨年度「人権尊重を基本方針とし、『楽しい・嬉しい・ほっとする』そのような当たり前の感情を持つことを大切に、安全に生き活きと生活できるよう見守り支援する」という主旨の、事業所独自の理念を作成した。職員は、この二つの理念を念頭に置いて、毎日のケアを行うよう努めている。家族交流会を年2回開催しており、利用者・家族・職員間のつながりを深めるとともに家族等からの意向等を聞く機会としている。また、毎月事業所広報紙と利用者の生活状況等を知らせる写真入りの手紙を送る取組をしていることも、家族との連携に大いに役立っている。入浴は、毎日入れるようになっていて、ほとんどの利用者が毎日の入浴を楽しんでいる。今までは、「利用者が重度化し医療依存が進むと事業所では対応できない」として、利用者や家族に対し入院や他の施設への転居を勧めていたが、訪問診療してくれる医療機関と連携がとれるようになり、利用者や家族が希望すれば看取りも出来るような体制が出来つつある。このことを職員や家族に説明して理解が進むように準備中であり、実現に向けた今後の取組が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			○ 3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念・事業所としての理念を毎日唱和し、スタッフ全員が同じ方向へ向かい取り組んでいる。	「私たちは、世界一の『しあわせ創造企業』を目指します。」をモットーにした会社の理念を毎日の打合せ時に全員で唱和して意識付けをしている。昨年度「人権尊重を基本方針とし、『楽しい・嬉しい・ほっとする』そのような当たり前の感情を持つことを大切に、安全に生き活きと生活できるよう見守り支援する」という主旨の、事業所独自の理念を作成した。職員は、この二つの理念を念頭に置いて毎日のケアを行うよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や日々の散歩時間を通じ、地域の方との交流が図れるよう務めている。	近隣の保育園児が年に数回来所して、利用者と一緒に折り紙をしたり歌を歌ったりして楽しく交流する機会が設けられている。また、夏まつりには近隣住民が参加したり、利用者の散歩の際に住民と公園等で触れ合うことなどもあるが、日常的な地域との交流ができていない状況にはない。	自治会には加入しているものの、近隣住民との付き合いや繋がりが十分でないことを何とかしたいと管理者は考えている。今後は、職員と話し合いながら、交流促進に向けて具体的な取組をしていくことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議内でのお伝えや、施設行事を通じてご理解いただける機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居中のお客様の状況報告・実施したイベントの報告を行い、自治会・民生委員・包括職員の方からご意見をいただき、次回に生かしている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員・自治会役員・民生委員・利用者が参加して年6回開催している。利用者の状況・各種活動報告・情報や意見の交換等を行っており、現在、地域の高齢者サロンの情報を得て、今後の利用者の参加について、協議しているところである。	管理者からの聞き取りや運営推進会議議事録からは、会議の内容がパターン化し運営改善に向けた充実した話し合いがなされていないことが窺える。今後、開催時間帯・参加メンバー・協議内容等について見直し、充実に向けて創意工夫することが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との関係構築はできていない。今後、運営推進会議や、相談がしやすい環境作りを行っていきたい。	市の担当者との関りはほとんどない。地域包括支援センター職員との関わりが多く、指導や助言を受けたり情報や意見の交換を行い、運営改善や利用者の支援に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット出入り口は、安全への配慮のため施錠をしているが、事務所を通じて両ユニットへの行き来ができるようになっている。玄関については、夜間帯を除き施錠は行っていない。	身体拘束をしないケアについて、年2回職員研修を実施しており、日常の支援でも関わり方や言葉遣いなどにも十分気をつけるよう取り組んでいる。状況に応じて出入口等の施錠をすることはあるが、最小限に留めている。	

今泉ケアセンターそよ風(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のためのマニュアル整備・チェックシートの活用により、全スタッフへ周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係資料を事務所内に設置し、全スタッフに周知しているが、支援には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、詳細の説明や不明な点がないかを必ず確認し、契約をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時のコミュニケーションや、毎月お渡ししているお手紙を通じ、希望・要望ができる限り反映するよう、プランの見直しを行いながら実施している。	利用者の希望や思いは、日常のケアの時や一対一になる場面を利用するなど話しやすい雰囲気の中で、聞き取るよう工夫している。家族からは面会時等の会話を通じて意見・要望等を聞いて、検討のうえできるだけ運営やケアに反映するように努めている。また、家族交流会を年2回開催し、利用者・家族・職員間のつながりを深めるとともに家族等からの意向等を聞く機会としている。毎月事業所広報紙と利用者の生活状況等を知らせる写真入りの手紙を送る取組をしていることも、家族との連携に大いに役立っていることが窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームミーティングや事業所の全体会議に、管理者・センター長・管轄の責任者が出席をし、意見を吸い上げている。	月1回、全体会議(グループホームと1階デイサービス合同)とミーティング(グループホーム2ユニット合同)を開催している。両会議とも職員からは活発に意見や提案が出され、議論の上合意されたことはすぐ改善するようにしている。管理者は、日常的にも職員の声をきちんと受け止め、できるだけ運営に反映させることを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時の面接や勤務中のコミュニケーションを通じ、環境整備に努めている。		

今泉ケアセンターそよ風(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容は必ず全スタッフへ周知し、できる限り参加ができるよう調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内のグループホーム協議会を通じ、他そよ風事業所との情報共有や問題解決ができています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の解消と共に、ご入居中のお客様が好きなこと・得意とすることを聞きながら、ご自宅での生活スタイルにより近い日々が送れるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居を考えた理由や、ご自宅で困っていたこと・要望等を伺い、グループホームでの生活に慣れるまでは、まめに連絡をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活に慣れること以外に、ご入居中のお客様が必要としていることをご家族様に確認しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般のことは、ご入居中のお客様とスタッフが一緒に行うことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居中のお客様のご様子は、良いこと・悪いことを含め事実をお伝えし、ご家族様と情報を共有しながら支援できるよう努めている。		

今泉ケアセンターそよ風(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な通院・予め決まっている外出についてはご家族様にお願いをし、これまでの関係性が継続していけるよう努めている。	家族と一緒に外出して食事をしてくれる利用者はいりますが、親戚以外の面会はほとんどない。事業所の外出の機会に、見知った場所等があると、利用者は懐かしんで喜ぶ姿が見られる。1階のデイサービス利用を経過した上で入居した利用者が、時々デイサービスに行き馴染みの人と交流することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居時のユニット選択や、必要に応じてユニットの入れ替えを行うことで、馴染みの関係を築くことができるような環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい場所での生活状況はどうか・何かあったらいつでもご連絡いただけるよう、相談しやすい環境作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活状況・ご入居中のお客様の希望を取り入れ、ご家族様の意向も確認しながら把握に努めている。	言葉のやり取りのできる利用者からは、日常の関わりを通して希望や意向を聞き取り、言葉の出にくい利用者からは表情や態度・行動等から職員が意向等を汲み取るようにしている。聞き取った内容について、職員間で共有して検討し、可能なことはできるだけ実現するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時、ご家族様からのヒアリング・ご入居いただくお客様の訴えをよく聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間や就寝時間のタイミング、一緒に行えることは何かがあるか、個別に把握するよう努めている。		

今泉ケアセンターそよ風(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者の一存だけでなく、スタッフからの意見を吸い上げながら作成している。	介護計画作成担当職員は、利用者からは日常の関わりの中で望むことを聞き取り、家族からは面会等の機会に直接要望等を聞いている。また、個々の職員から随時生活状況の把握を行い、サービス担当者会議を経たうえで、介護計画を作成している。毎月末に利用者全員の介護計画作成やモニタリングの実施予定の期日をまとめ、利用者の記録綴りにも確認メモを貼り付けて確実に実施している。また、利用者の状況の変化等に応じて見直しを行い、常に適切な介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入は日々行っており、計画作成担当者との情報共有ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ご家族様と確認をとりながら、できることは取り組んでいただけるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の訪問や、個々が必要としているニーズを活用し、その方らしい生活ができるよう、調整を行いながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診については、基本的にご家族様へお願いしており、必要に応じて近況の報告や、スタッフも同行して受診ができるよう、体制を構築している。	家族の介助により入居前のかかりつけ医に継続して通院している利用者が多いが、事業所に訪問診療してくれる医師を主治医にする利用者もいる。通院の場合は家族に事業所での様子を伝え、受診後は結果を報告してもらい薬を預かっている。歯科診療所の医師と歯科技工士が定期的に事業所を訪れ、義歯の調整や治療をしており、事業所も口腔ケアには力を入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師と連携し、状況変化の把握・早期発見に努めている。		

今泉ケアセンターそよ風(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院が決まった場合には、早期に対応できるよう状況確認・把握に努めている。日頃からの関係作りは、一部の方しか対応できていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLの著しい低下や、共同生活が困難になってきた場合には、その旨をご家族様へ相談し、今後の対応方法・方向性について話し合いをしている。	重度化し医療依存が進むと事業所では対応できないとして入院や他の施設への転居を勧めていたが、訪問診療をしてくれる医療機関と連携がとれるようになり、利用者や家族が希望すれば看取りも出来るような体制が出来つつある。このことを職員や家族に説明して理解が進むように準備中である。	訪問診療に対応する医療機関との連携が出来るようになり、看取りも可能になることが見込まれることから、介護職員への研修なども実施し、職員や家族が安心して看取りに取り組めるようにしていくことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応方法について事業所内への掲示はしているが、定期的な訓練までは行うことができていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対応方法については、全社統一のマニュアルがあり事務所内に掲示している。地域の協力体制については、運営推進会議を通じてお願いをしている。	手続き上の関係で、消防署立ちあいの避難訓練が出来ていないが、事業所内では訓練を実施している。事業所が2階にあるため、火災や災害時の避難誘導には工夫が必要であり、検討を重ねている。各居室には2箇所にスプリンクラーが設置され、館内各所にも設置されており、自動火災通報装置も設置済みである。両ユニットとも廊下の端に比較的傾斜の緩い非常階段が取り付けられており、火災通報装置が作動すると同時に非常口の扉が自動的に解錠される仕組みになっている。また、県内各所にある系列の施設がいろいろな面で助け合い、融通出来る関係ができています。	障害になっている手続きを進め、消防署立ちあいの避難訓練(日中想定と夜間想定)が実施できるよう努力してほしい。さらに、消防署の助言を仰いで、2階からの避難方法などを検討してほしい。また、火災や災害時には、地域住民の協力も欠かせないため、地域自治会等との早期の関係構築が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが上からの目線にならないよう、呼名は苗字で行うことを徹底し、人格の尊重に努めている。	「人権尊重」を事業所の基本方針として掲げ、言葉遣いなどに気を付けている。職員と利用者が親しくなるにつれ、友達言葉になりがちであるが、間柄を見極めながら、相応しい言葉遣いが出来るよう常に検討を加えている。	毎月利用者一人ひとりの軽い運動の目標をつくり、名前入りのカレンダーに毎日の取組ができたならシールを張る仕組みで利用者を励ましている。この取組自体は健康や意欲の維持・向上に効果を上げているが、カレンダーを人目に触れる廊下に張り出すことが、利用者のプライバシー保護の面で問題がないのか、一度検討してみることが望まれる。

今泉ケアセンターそよ風(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	『やって下さい』と声をかけるのではなく、ご入居中のお客様が決定できるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れは決まっているが、入浴の有無やレク・散歩への参加の決定は、ご入居中のお客様の意思を尊重しながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものは、起床時にご入居中のお客様と一緒に選べるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・配膳・下膳・後片付けと、一連の流れが一緒に行えるよう、スタッフと協力している。	平日の昼食と夕食は併設施設の厨房で専任の職員が調理してグループホームに運び、ユニットの職員が器に盛りつけて提供している。毎日の朝食と日曜日の三食は職員が献立を交替で考え調理している。利用者の誕生日にはケーキなどを手作りして祝っている。月1回程度、利用者と職員がおやつや軽食を作る料理教室を実施している。外食を楽しむイベントもあり、利用者の誕生日に家族が営む寿司店に行き、一緒に行った利用者に喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の多い・少ないは、ご家族様に確認をとりながら提供しており、水分についてはできるだけ多く摂取していただけるよう声かけしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ずつ口腔ケアを促し、できない方へはスタッフが声かけ・支援を行っている。		

今泉ケアセンターそよ風(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに応じてトイレ誘導を行い、夜間帯に於いても、睡眠を妨げない程度に時間でのトイレ誘導を行っている。	日中は努力してトイレで排泄することを支援している。入院中はオムツであった利用者も事業所に入居したことでリハビリパンツ着用になり、トイレで排泄できるようになっている。常時車椅子利用の利用者も、職員2人が介助してトイレに行くことが出来ている。	会社の方針として、新年度から自立支援を積極的に進め、①オムツ外し、②普通食、③運動、④水分補給(1500mlが目標)を取り組む目標課題としている。事業所ではまず水分補給の目標達成に取り組む予定で、一人ひとりの介護計画の見直しから始めようとしており、成果が期待される。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量の少ない方は、希望に応じて果物の提供や食形態の配慮をし、対応している。運動ができる機会は、常に作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴していただけるようスタッフの体制を整え、できる限り就寝時間に近い夕方の時間帯を選んでいる。	事業所の方針として、清潔を保つために出来るだけ毎日入浴ができるような体制をつくっており、体調が悪くなければ多くの利用者が毎日入浴を楽しんでいる。浴室には個浴槽が2つ設置されていて、基本的には時間をずらしながら一人ずつ入浴するが、仲がいい利用者同士が一緒に入ることもある。重度化した場合は職員が2人で入浴介助するが、さらに介助が必要な状態になれば併設している1階のデイサービスの機械浴槽を利用することも出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全居室がカギ付きの個室となっているため、安心して休息できる環境であるとともに、プライバシーへの配慮もできている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書は、全スタッフが必ず確認をし、服薬内容に変更があった場合には、特に注意して様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方ができない方のフォローをしたり、併設のデイサービスに馴染みの方がいるご入居中のお客様は、1階デイサービスへ行き気分転換ができる環境を作っている。		

今泉ケアセンターそよ風(ユニット共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には毎日散歩へ出かけられるような環境を作っている。月に1~2回は車を使用し外出ができる機会を設けている。	事業所の周辺は住宅街ではあるが、市のコミュニティセンターや公園もあり、川沿いのポプラ並木は格好の散歩コースとなっている。冬は出かけることが少なかったが、春になると散歩に出かけることも多くなる。散歩以外にも車でポピーや彼岸花等の花見に出かけている。職員が食材を買いに出かけるときに利用者を誘うこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、事務所内にて保管をしているが、買い物へ出かけた際やヤクルトの訪問時には、自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、事務所内の電話機を使用していただき対応している。手紙のやりとりは、暑中見舞いや年賀状のみ行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内は明るく、廊下は落ち着いた色合いになっている。壁紙に季節感のある物を取り入れ、心地よく過ごしていただける空間作りをしている。	廊下の壁には額装した版画が何枚も飾っており、職員の手になる装飾も施されているが、全体にすっきりとした飾り付けになっている。キッチン付きのリビングルームは広く、窓が大きいので明るい。テーブル3つの他にゆったりとしたソファがあり、利用者はそれぞれテーブルで塗り絵をしたり、本を読んだり、手仕事をしたり、ソファでテレビを見たりして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで過ごす・ソファでくつろぐ等、好きなスタイルで過ごせる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居中のお客様の馴染みの物は、ご自宅から持ち込んでいただき、安心して生活できる環境を作っている。	居室の入り口には利用者の姓名と装飾模様を描かれた職員手製の表札プレートが掲げられている。室内には容量の大きなロッカーとデスクにも使用できる棚が作り付けられ、エアコンが完備されている。利用者はベッドと布団を用意し、テレビや椅子、位牌、写真立てなど好みのものを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居中のお客様の思ったように動くことができ、1人でも安全に生活が送れる環境である。		